

高知県立のいち動物公園でのアサギマダラのマーキング調査について

牛腸 典代・斎藤 隼

公益財団法人高知県のいち動物公園協会

はじめに

アサギマダラは、春には北上、秋には南下し、長距離移動をすることで知られるマダラチョウ科に属するチョウの仲間である。近年、全国各地で移動ルートや生態を調べるために、本種の翅に油性ペンで標識を記入するマーキング調査が盛んであり、2007年、近隣の香南市立野市小学校の児童らが総合学習の一環として、本種のマーキング調査のため当園を訪れたことを機会として、当園でも調査活動を開始したので、その状況を報告する。

フジバカマの植栽

2008年6月、園内にある自然散策路に吸蜜植物であるフジバカマの苗120株を児童らと一っしょに植えた。この年には、300頭を超えるアサギマダラにマーキングが行えた。

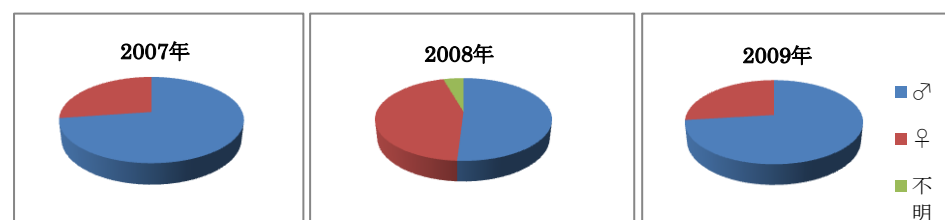
2007年～2009年のマーキング頭数

	♂	♀	不明	合計
2007年	8	3	0	11
2008年	161	141	14	316
2009年	163	60	0	223



<フジバカマを訪れたアサギマダラ>

オスとメスの割合



本州からの飛来個体

1府8県（和歌山県、福島県、愛知県、兵庫県、石川県、長野県、大阪府、三重県、徳島県）から飛来個体を確認している。

高知県内からの近距離移動

香美市、高知市、香南市からの飛来を確認。

のいち動物公園からの移動

室戸、足摺の他、鹿児島県の屋久島、喜界島で再捕獲される。喜界島までの移動距離は、約684kmとなる。(画像提供は再捕獲者。)



<20日間で喜界島へ>

<7日間で喜界島へ>

<9日間で室戸岬へ>



<長野県からの飛来個体>

卵と幼虫

アサギマダラの飛来後、自然散策路にある食草のキジョランの葉の裏をめくってみると、卵と幼虫が観察できる。



<食草のキジョランに産み付けられた卵と幼虫>

教育普及・情報発信

自然散策路には、アサギマダラの解説パネルを、どうぶつ科学館には解説コーナーを設置し、教育普及や情報発信を行っている。



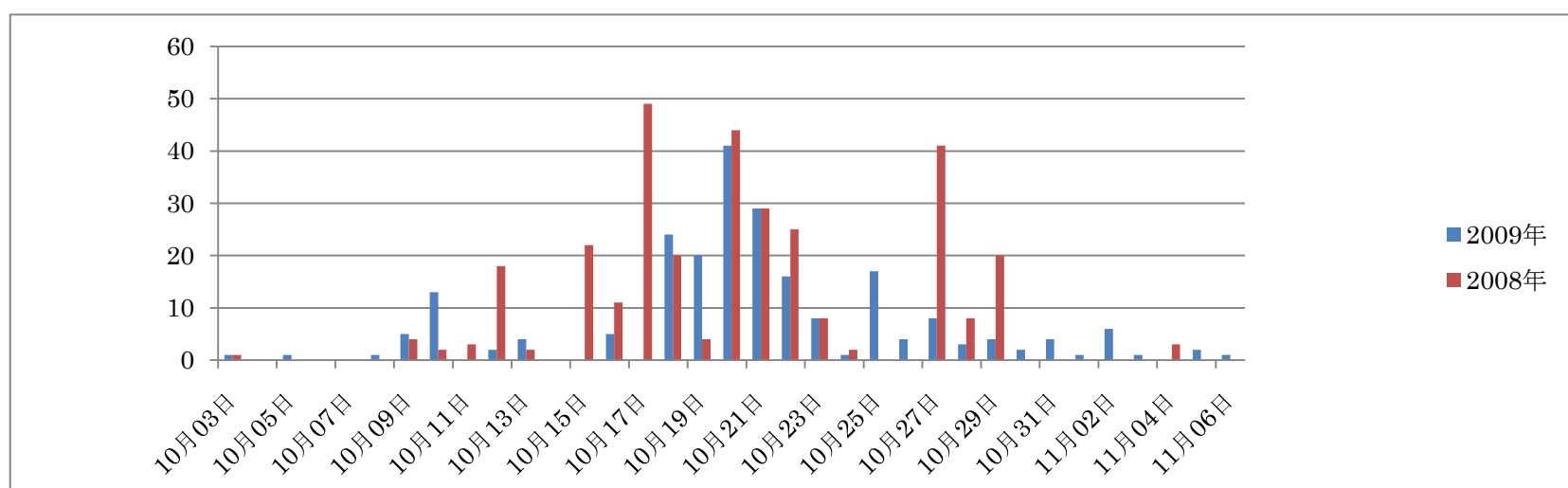
<マーキング調査の様子>

<標識の記入>

<どうぶつ科学館解説コーナー>

まとめ

- ・自然散策路にフジバカマを植える事によって、マーキング数が一気に増えた。アザミやセンダングサ、ツワブキなど他の吸蜜植物よりも、フジバカマの誘引力が大変強いことが分かった。
- ・マーキングできた期間はほぼ1か月間で、飛来のピークは10月20日前後であった。
- ・自然散策路への飛来個体は北東～東方面より移動して来ており、南下移動のルート上に当園が位置していることが示唆される。
- ・食草のキジョランには産卵が見られ、冬季も越冬幼虫が観察できる。
- ・今後も県内外のマーカの方々と連携して調査を継続し、本種の行動や生態を広く知らしめると共に、動物公園をこうした自然体験の場としても活用していきたい。



<日別マーキング数>

